

## どんぐりっ子の森戦略

### 「多様な生物がいのちを育む森づくり」プロジェクト2011

内橋欣司（北はりま地域づくり応援団）

#### はじめに・・・

北はりま地域づくり応援団は、北播磨地域の住民活動に対し、住民の自立と族創性を確保し、住民自身が担い手となり、行政とのパートナーシップを築きながら継続的な活動と「参画と協働」の推進を図るため、北播磨地域の住民・グループ・団体により行われる様々な活動に対し、その活動が安定し、運営して行けるような協力、情報の提供、ネットワーク等をサポートする事を目的として、2004年4月に設立しました。



2005年4月に、加東市嬉野台の一角に、北はりま冒険あそび場（どんぐりっ子の森）を開場し、活動を展開して参りました。

#### 「どんぐりっ子の森の目的・趣旨」

どんぐりっ子の森の「自然体験環境活動」は、子ども達が自然の中で、遊び、学びながら、自然への理解を深め、自然を大切に育むと共に、「生きる力を育み」いのちの大切さを学び人と人・人と自然とのつながりを学習するところです。どんぐりっ子の森では「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに、冒険心や好奇心を大切に育てるため、子ども達がいろいろな遊びを通して、のびのび生き生きと楽しめるあそび場と五感を使って（見る・聴く・嗅ぐ・味わう・触れる）自然の中で感動体験が出来る「自然体験環境活動」を展開していきます。また、どんぐりっ子の森では、エコエネルギーで資源循環型の森づくりをしながら、森に負荷を掛けない活動を展開して行きます。

#### 「多様な生物がいのちを育む森づくり」2011

2008年から開始した、森のひみつを知ろう学習会・自然観察会、森の動植物を観察してきましたが、年々、動植物が変化している事を感じました。原因の一因に成っているのが、気候変動により、地球温暖化等により、森の動植物の環境が大きく変わった様に思います。その事を踏まえて、2005年から2010年の5年間に採取、観察した動植物を基本ベースにして森に大型パネルを制作し展示しました。また、1年毎に森の大型パネルを制作し、森のどの場所で、採取・観察したのか、展示する事により動植物の変動を調査して行きます。



今年、新たな施設として、カブトムシ・クワガタ等の丸太小屋を作りました。集会場には、水槽を設置し、小川の水中生物・魚・ザニガ二等を飼い、子ども達が観察出来る様にしております。

### 調査・観察方法

1. 植物・きのこ・水中生物・魚・昆虫等の観察と生態を学習する。
2. 森の中で不思議に思う事を探す。
3. 発見した、動植物の名前・生態等を図鑑等で調べる。
4. 発見した、動植物は写真撮影し、資料として、保管する。
5. 森の展示パネルに、発見したなかまの写真を展示する。
6. 毎年、展示パネルを制作し、動植物の現状と変化を学習する。



### 「森のなかまの紹介」

植物は、現在44種類確認されておりますが、絶滅危惧種のアギナシ・ヒナノシャクジョウ・ホンゴウソウ等が、生息している事を確認しております。

水辺の生き物は、どんぐりっ子の森の一角に池が有り、多くの水辺の生き物が生息しております。森の中の池ですので、人眼につく事も無く外来種も余り入っていないため、昔ながらの、メダカ・フナ・コイ等が生息しており、昨年はイチモンジタナゴが多く生息している事がわかりましたが、今年、カワバタモロコ等も多く生息している事を知りました。また、絶滅危惧種の手メタイコウチも確認しており、水辺の生き物にとって豊かな森である事を知りました。

森の昆虫類は、73種類確認されておりますが、春には、ギフチョウが飛び交う森と成っております。夏の夜には、マドホタル・姫ホタル・平家ホタルが生息しているのを確認しました。秋には、ホタルの幼虫を放流する事が出来ました。どんぐりっ子の森は、動植物の楽園です。いつまでもこの環境を維持出来る様に、この活動を展開して行きます。

